

(仮称)マンガの聖地としまミュージアム 整備基本計画



平成 29 年 5 月
豊島区

(仮称)マンガの聖地としまミュージアム
整備基本計画

平成29年5月

豊島区

(仮称)マンガの聖地としまミュージアム整備基本計画の策定にあたって



平成 28 年 7 月、豊島区はトキワ荘のあったまち南長崎にトキワ荘の復元施設である(仮称)マンガの聖地としまミュージアムを整備する構想を発表しました。トキワ荘は、手塚治虫、藤子不二雄[Ⓐ]、藤子・F・不二雄、石ノ森章太郎、赤塚不二夫ら、現代マンガ・アニメの礎を築いた巨匠が住み集い、若き青春の日々を過ごした伝説のアパートです。

「トキワ荘」は昭和 57 年に解体され、私が区長に就任した平成 11 年にはすでに 18 年が経過していました。当時、2,000 名を超える地域の方々から「(仮称)トキワ荘記念館建設の陳情」がありましたが、直ちに実現に向けて動くことは難しく、少しでもできることから始めようとの思いから、これまで、南長崎地域の皆様と一緒にトキワ荘をはじめとしたマンガによるまちづくりを進めてまいりました。

平成 21 年には、記念碑「トキワ荘のヒーローたち」を設置し、平成 25 年 12 月には「トキワ荘通りお休み処」を開設しましたが、拠点施設としては小規模で、陳情のあったトキワ荘の復元には至っておらず、トキワ荘のあったまち南長崎のマンガによるまちづくりとしては、画竜点睛を欠いているとの強い思いがありました。

この度、満を持して、トキワ荘のマンガ文化を発信し後世に継承するための拠点施設としてトキワ荘復元施設を整備するため、検討会議を設置し、里中満智子座長のもと精力的な議論を重ね、「(仮称)マンガの聖地としまミュージアム整備基本計画」がまとまりました。トキワ荘の外観はもとより、玄関、階段、マンガ家が暮らした 2 階の居室、共同炊事場、便所をできる限り忠実に再現して当時のトキワ荘を彷彿とさせる施設として整備するものです。

今後は、この基本計画に基づき、展示及び建築における具体的な設計の検討に入ります。多くの来館者が訪れ、末永く愛される施設となるよう引き続き熱意を持って取り組んでまいります。

2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、豊島区の文化施策は集大成となります。マンガ・アニメの楽しさを発信する空間として、整備地となる南長崎花咲公園と本施設が調和し、周辺地域も含めて訪れる人々を楽しませるまちづくりを地域と一体となって推進してまいります。

終わりに、(仮称)マンガの聖地としまミュージアムの整備において、ご理解・ご協力を賜っている関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 29 年 5 月
豊島区長

高野之史

(仮称) マンガの聖地としまミュージアム整備基本計画の策定にあたって



「トキワ荘」それは戦後生まれのマンガファンにとって、燦然と輝く聖なる存在だ。

マンガが「低俗」「子供の教育に悪い」「子供にはマンガは読ませないように」などと謂れなき差別を受けていた昭和 20～30 年代。毎月発売される少年少女向けの月刊雑誌の中に占められるマンガのページも年とともに増えていき、子供なりに「生きる意欲を知る」「物事や人とのつながりを考えるきっかけ」となる作品が多くマンガ家たちの手で世に出た。個人情報など気にもとめない時代だったので、各作品のページにはファンレターの宛先としてマンガ家の住所が記されていた。気にかかる複数のマンガ家たちの住所として「トキワ荘」があり、子供心に「ここはマンガの殿堂？」と胸がときめいたものだ。

同じ夢に生きる人たちが日常生活を共有し、お互いに刺激と支えになり共にどんどん新しい表現にチャレンジするなんてきっと夢のような時間が流れているに違いないと憧れた。

先輩たちの仕事に憧れていつしか自分もマンガ家を目指すようになり「いつかトキワ荘へ入りたい、でも恐れ多くて自分からは飛び込めない、どうしたらトキワ荘に誘ってもらえるか？」などと、あらぬ空想と憧れの日々を送るようになった。これは私と同世代のマンガ家たちの多くが抱いた夢だと後で知った。

私が上京した頃はほとんどの先生方がトキワ荘から出て、それぞれの仕事場に移っていかれた後だった。抜け殻(?)のトキワ荘を訪ねて、玄関前で佇んだ同業者の体験談も多い。皆にとって「いつかは先輩方に少しでも近づきたい」という夢と意欲を掻き立ててくれた「聖域」なのだ。

この度の豊島区によるトキワ荘復元計画を知り、心躍らせた同業者は数え切れないほどいる。

若い夢と希望は、お互いに切磋琢磨できる環境があつてより大きく育つ—自然発生的に生まれた場ではあるが、日本文化史に大きな意味を持つ「トキワ荘」復元計画に心から感謝したい。

平成 29 年 5 月

(仮称) マンガの聖地としまミュージアム整備検討会議

座 長

里中 滋 智 子

目 次

第1章 (仮称)マンガの聖地としまミュージアム整備に向けた基本的な考え方

- 1 事業の背景 2
- 2 事業の基本的な考え方 8

第2章 (仮称)マンガの聖地としまミュージアムを中心に展開する事業活動計画

- 1 展開する事業活動 12
- 2 事業活動計画 13
 - (1) 調査・研究事業 13
 - (2) 情報発信事業 13
 - (3) 展示公開事業 14
 - (4) 教育普及事業 14
 - (5) 資料収集・保存事業 15
 - (6) 回遊促進事業 15
 - (7) 利用者サービス事業 19
- 3 想定される利用者像に対応した事業活動の考え方 21

第3章 展示計画

- 1 展示の基本的な考え方 24
- 2 常設展示 25
- 3 再現展示 26
- 4 企画展示 27

第4章 施設整備計画

- 1 整備予定地の概要 30
- 2 施設整備の基本的な考え方 31
- 3 諸室概要(案) 32
- 4 機能配置イメージ 34

第5章 管理運営計画

- 1 管理運営の基本的な考え方 36

第6章 事業推進計画

- 1 整備スケジュール 38
- 2 今後の検討課題 39

参考資料

- (仮称)マンガの聖地としまミュージアム整備検討会議 42